

G3 のツイッター その 70

烈剛河内 竹井 保満

こんな時代になったのかと驚きました。

あの NHK 放送が、朝の 8 時 15 分から「突然ですが、セックスレスの状態にあなたは満足できますか？複雑な思いを語り合います！」のタイトルです。

出演者はアナウンサーと男女 3 人ずつのタレントさん、それに婦人科の医者と精神科の医者でした。またまた驚いたのは、色々な理由で長期間のセックスレスの老若男女が多いのです。人間がそんなに短い時間に変わるものかと思いました。

結婚しない人たちや、セックスレスの人の急増や自分達だけの生活を楽しんでいる人々で少子化が進んでいるのでしょう。政府発表の 2018 年の出生数は 91.8 万人で出生率は 1.41 倍で過去最低でした。このように新生児が少なくなれば国としても大変な事です。しかし、国が先頭に立って産めよ増やせよという、セクハラだとか軍国主義だと言われるので為政者も声にしません。

ヒトは、愛情とか恋愛を感じるようになってから、他の動物たちが発情期に出すフェロモンを聞き分ける機能が退化してしまったそうです。ヒトを除く動物たちは自分の子孫を残すのに懸命です。ヒトに近いニホンザルは人間と違ってお婆さん猿がモテルのだそうです。理由は子育ての経験も豊富で確実に自分の子を残せるのだそうです。鮭なども自分の体がボロボロになりながらも命を次世代につなげます。

人間がじり貧で少なくなるのをどのように防止できるか、人類を増やす実験を行った人がいました。昔ロシアのイリヤ・イワノフという動物の科学者がチンパンジーの雌に自分の精子を妻にチンパンジーの精子を入れてマンパンジーやパンジーマン作りの実験を始めました。この事が政府に漏れて人倫に反するとの理由でアフガニスタンに流されて 3 年後に死亡しました。今なら IPS の研究も進んで人間の一部分を他の動物での増殖も可能になってきました。その内に人を作るのも可能になるでしょう。これが人倫規定に触れるのなら、大量に人を殺す戦争は人倫規定に抵触しないのか、2020 年の正月にたわいもない、取り留めもない事に呆けかけた頭で考えています。

今年の初詣は百舌鳥・古市古墳群で、応神天皇を守る誉田八幡宮をやめて、猪退治の薄田隼人（岩見重太郎）のお墓参りと、西国八十八か所の葛井寺に参り 112 歳までの長寿を祈願してきました。正月のテレビ放送で、空飛ぶ自動車の研究が進んでおり 2040 年代には、空飛ぶ自動車が主流になるとか、資本主義も末期的症状、何とか全知で切り抜け平和の世界が続けば、112 歳まで生き延びて願望が叶えられます。